



特集

獅子舞

実りの季節を迎えると、各地区で太鼓の音が鳴り響き、獅子が舞う。

昔は当たり前だった風景です。

しかし、時代が変わり、

多様な文化があふれる今では、

獅子が舞うことが

当たり前ではなくなっています。

昔の人は、なぜ

獅子舞を行っていたのでしょうか。

そして、今の人はなぜ

獅子舞を行っているのでしょうか。

今回の特集では、獅子舞について考えます。

稲の実りと獅子舞

―獅子舞を知る―

日本で獅子舞が始まったのは、16世紀初めです。飢饉・疫病を追い払うため、伊勢の国で獅子が正月に舞ったことがきっかけといわれています。その後、祝い事や祭り事で獅子舞を行うことが定着しました。本町の獅子舞は、二人立ちといわれる二人一組で獅子となるものです。伊勢や熱田方面の人たちが全国を巡業したことで広まったと考えられて

おり、県内でも二人立ちの獅子舞が多く見られます。

以降、本町の獅子舞は、五穀豊穡や悪疫退散を祈願する秋の大祭での奉納行事として始まり、毎年の秋祭りの行事に定着したと考えられています。

残念ながら、各地で獅子舞が始まった時期は定かではありません。しかし、新立地区に明治に作成された獅子頭が残っていることから、明治初期

には、町内で獅子は舞っていました。現在は、12地区で獅子舞が残っています。

五穀豊穡や悪疫退散を願って行われる獅子舞ですが、その間に行われる子どもたちの寸劇にも、昔の人たちの生活を垣間見ることができます。

「百姓のおやし（おやしい）」と呼ばれる（が種まきをしていると、猿がそれを荒らして回るため、狩人が火縄銃で追い散らす）」

地区により多少の違いがありますが、自然に囲まれて農村で生活していた人々の姿が映し出されています。稲の実りと獅子舞。町内に当たり前にあり、なくてはならない風景だったのです。



明治6年作の獅子頭（新立地区保存）

写真 真で見る 獅子舞の流れ

獅子が昼寝すると、①百姓のおやじが猿、狐、狩人を引き連れ畑へ②種まき中、猿が邪魔をする③おやじは邪魔をする猿に石を投げて転ばせる④種まきが終わったおやじは、猿を背負って帰る⑤狩人が昼寝中の獅子を起こしたり火縄銃で撃ったりする（流れは一例。写真は①～④横田、⑤東古泉）



なくてはならない獅子舞の風景 その1

大溝獅子舞保存会

「忘れられない太鼓の音。
この風景を後世へ」

「夜になると、素鷲神社に行って練習していました」と60年前を振り返るのは、川邊輝雄さんです。

明治時代には既に始まっていた大溝地区の獅子舞。たのも（頼母、田の面）の節句になると太鼓の音が地区内に響いていましたが、太平洋戦争がきっかけで中断。その後、昭和27年、川邊さんが小学生のときに復活します。「町内だけでなく、道後温泉の坂の前や松山市の日切地藏の前など、さまざまな場所で披露しました。狐の役をしていて、坂のところ

で側転するから転がっていました」と川邊さんは笑います。
このように町外でも好評だった獅子舞ですが、獅子頭が大破し、太鼓も破れてしまったため、4年ほど続いた後、再び中断してしまいました。
「太鼓の音が聞こえない祭りは寂しい」との声をたくさん聞きました。中には、獅子舞はいないけれど、素鷲神社で太鼓だけ叩く人もいて」と、中断された当時を振り返る川邊さん。地区の中で、獅子舞を受け継いでいきたいの思いが大きくなりました。



川邊輝雄さん

そして、昭和55年、獅子は再び大溝で舞い始めました。「初めは5人でスタートしました。太鼓と獅子舞が2人ずつ、1人はおたふくやおやじをして。休む暇もなくてしんどかったけれど、みんなが獅子に寄ってきてくれてうれしかった」と、川邊さんは話します。

それから35年。今年も、大溝地区では軽快な太鼓の音が聞こえます。5人で再始動した獅子舞も、今や保存会ができ、20人ほどの若者や子ども

- 1) 昭和の獅子舞
- 2) 勇ましく舞う雄獅子。
- 3) 目と耳で太鼓の音が受け継がれていく
- 4) おそろいのTシャツで練習に励む子どもたち
- 5) 手作りの押し車



もが伝統を継承しています。「小さい地区だから人の確保は難しいです。でも、手作りの押し車やおそろいのTシャツを作るなど、町内で一番熱い獅子舞だと思っています」と話す保存会の向井康雄さん。これからも、大溝地区の獅子は、太鼓の音に合わせ、舞い続けます。





なくてはならない獅子舞の風景 その3

獅子の巡業と競演

「地区の枠を越えて交流を深める」



加藤愛夢くん 沖田橙泉くん
恐くて少し泣いてしまったけれど、獅子はとてもかっこよかったです。

地域の思いを受け、保存会により各地区で大切に受け継がれている獅子舞。この舞は、地区の枠を越え始めています。

「わあ。かっこいい」「さー。かわいいー」

10月14日、宗意原獅子が古城幼稚園にひょっこり姿を現しました。すると、その勇ましい姿に大歓声を上げる子どもたち。約30分ほどの演目を、時に笑顔で、時に泣き顔で、食い入るように見つめていました。

他にも各地区の保存会は、地区の枠を越え、幼稚園や福祉施設など、さまざまな場所に巡業しています。そして、自分の地区では獅子を見ることができない人など、多くの人を魅了しているのです。

それだけではありません。10月15日、エミフルMASA KIでは、東古泉・永田獅子2頭が乱舞競演しました。

両地区が、この場所で競演するのは3年目。息びつたりの動きを見せたかと思えば、1頭が襲い掛かり、もう1頭が倒れ、それでもすぐに応戦して！。

買い物物に来ていた人たちも、その息詰まる様子に足を止めていました。

獅子の巡業と競演。地区の枠を越え、見る人と、また演じ手同士をつなげて、交流を深めるこの風景も、なくてはならないものではないでしょうか。

1) 宗意原獅子舞保存会が古城幼稚園へ巡業。獅子に興味津々の子どもたち 2) 東古泉・永田獅子乱舞。2頭が入り乱れ、迫力ある舞いを見せる



2

なくてはならない獅子舞の風景 その2

横田獅子舞保存会

「ただ『一緒に』お祭りを楽しみたい」

「トントコトット、トントコ、トントコ、トントコ、トントコトット」

10月の夜、公民館に明かりがともると、「我先にー」と子どもたちがバチを手にとり、太鼓を叩き始めます。その風景を見守りながら「上手になったな」「できとるぞ」と優しく声を掛けるのは、横田獅子舞保存会の日野正憲さんです。

「今年は特に熱心に太鼓を練習してくれています。小さい頃に猿や狐、狩人などの役をしてくれた子が、小学生になったら太鼓に移ってくれている。高校生でも太鼓を叩きにきてくれていて、いい流れができつつあります」

今では、役や太鼓をする子どもと、おやじや獅子を演じる大人たちでにぎわう横田獅子舞ですが、演じ手が減り、中断していた期間がありました。その頃は、横田の中でも15日が「祭り」だという感覚が薄かったと日野さんは言います。

「獅子舞がないときは、横田に住んでいても職場と家の往復ばかりで、地域の交流がありませんでした。みんな祭りの日も普通に仕事に行っていた。それが寂しかった」

地域の中でも、誰からともなく獅子舞復活を求める声が上がりが始めていた平成3年。当時の区長さんたちが「獅子舞で、祭りと地域の交流を盛り上げよう」と一念発起。日野さんたちがその思いに共感し、獅子の先輩方の協力を得て練習を重ね、見事復活させました。

「復活は先輩方も喜んでくれました。私たちが獅子をするだけでは獅子舞はできなかった。おやじや太鼓を先輩方が手伝ってくれて、子どもが役をしてくれて。そして、たくさんの方が楽しみに見に来てくれて、初めて完成します。交流をして1つの輪になるのが横田獅子舞なんです」

以来、毎年15日の祭りの日に獅子舞を行い、その輪を広げ続けています。

「今後もできる限り続けていきたいです。子どもたちも楽しそうにきてってくれています。だから、一方的に子どもたちを上から指導するでも、はたから応援するだけでもなくて……ただ『一緒に』お祭りを楽しみたい。それだけなんです」



1) 「今年も獅子舞ができてうれしいね」と笑顔を見せる日野さん 2) 丁寧に太鼓を指導「よーに見ときよ」 3) 先輩の獅子から動きを研究。目指すは「あの人の獅子は生きとる」と言われること 4) 息の上がった獅子に駆け寄り、うちわで元気を送る「あともう少し、頑張れー」 5) 小さくてかわいらしい子役に、大きくて迫力のある獅子。この対比が横田獅子の特徴でもある





これからも 獅子は 舞い続ける

10月13日から15日までの間に行われた
各地区の獅子舞の様子を一部、切り取りました。



Interview

獅子を舞った

(写真左から)
村上菜々子さん
加藤瑞菜さん
大政祐里奈さん
＝中川原＝

狐から始めて、中学に入ってから獅子舞をしています。獅子を舞うのはしんどいけれど、みんなの前で披露するのは楽しいです。

中学校を卒業しても、獅子舞を続けたいと思っています。(加藤さん、大政さんは中3、村上さんは中2)



Interview

神崎獅子舞保存会

池内勝彦さん
＝神崎＝

今年は、獅子舞保存会ができてちょうど40周年でした。だから、大字の人も協力してくれて、はっぴを新しくしました。地域住民の皆さんの力を借りて、保存会が成り立っています。

秋祭り中、店の前で獅子舞をしていたら保育所の子どもが見に来てくれたり、他の地区との交流をしたりしました。同級生などが獅子舞をしている様子を見て、「自分たちもやりたい」と思ってくれる人が増えたらと思います。

そして、先輩の歴史を引き継いで、保存会が80、100、200年と、続いていってほしいです。



1_ おやじが猿、狐、狩人を引き連れる 2、3、4_ 地区によって異なる猿 5_ 火縄銃を撃ったと同時にクラッカーを放つ楽しい演出も 6_ 猿をおんぶするのも一苦労 7_ 軽快な太鼓の音が響く 8_ 秋祭りでの獅子の最後の舞。多くの人が詰め掛ける 9_ 獅子が間近に 10、11_ 獅子を捕らえた狩人 12_ 多くの人に見守られ空に向かって舞う獅子

特集「獅子舞」終わり

「伝統を継承したい」「祭り」と地域の交流を盛り上げたい」
今、獅子が舞うことには、昔とは違った新たな願いも込められています。さらに、現代の私たちは、昔の人たちは知らなかった、「やめてしまった寂しさ」と、復活させることの「大変さ」を知っています。そういった思いを含めて、私たちは次の世代に獅子を受け継いでいかなければなりません。

これは、獅子舞保存会だけで行うものではありません。地域のみんなで受け継いでいく必要があります。

獅子が舞うということ。これからも、私たちに託して、なくてはならない、私たちの手で守っていかなければならない風景なのです。

小さなおやじや狩人がいたと思えば、大きなおやじや狩人がいる。お面を被った猿がいたと思えば、赤く顔を塗った猿がいる。

風貌だけでなく、太鼓の音や舞い方も各地域で異なり、全く同じ獅子舞はありません。その違いが、地域の特色であり、良さだといえます。

百年以上前から、稲の実りとともに、五穀豊穡や悪疫退散を願い、舞った獅子。田が減り、専業農家も少なくなる